

～ “スマート・ビレッジ” 九戸村の実現に向けたWS開催～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：“スマート・ビレッジ” 九戸村の実現に向けた課題抽出とソリューションの模索
研究代表者：総合政策学部 教授 高嶋裕一
課題提案者：岩手県九戸村
研究メンバー：近藤信一（総合政策学部）、近藤信一研究室（総合政策学部）
技術キーワード：スマート・ビレッジ、ICT、課題解決、ワークショップ

▼研究の概要（背景・目標）

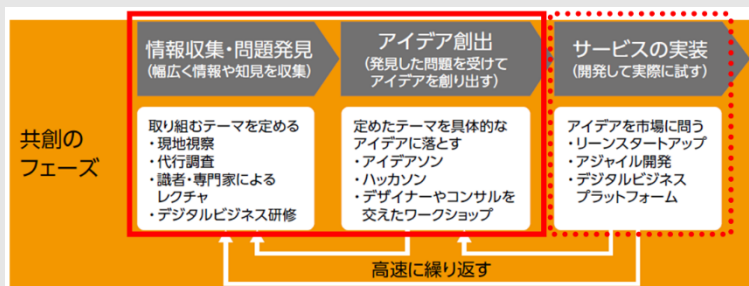
本地域協働研究の目的は、「九戸村ふるさと振興戦略」での各事業を踏まえて、さらにICT技術やIoT及びAIなどの新技術を活用して、九戸村のまち・ひと・しごと創生に関わる、低価格で効果的な取り組みのアイデア創出を図るものである。本協働研究の実施により、行政サービス・教育サービス・医療福祉介護サービス・産業振興及び企業誘致など九戸村が携わる様々な行政課題に対して、効果的な施策構築を行うことができる。ひいては、九戸村の厳しい財政事情、限られた人的資源の中で、「スマート・ビレッジ」として発展することを目指す。

▼研究の内容（方法・経過）

本研究では、(1)役場職員や村内関係者からのヒアリングと資料収集により、現状課題を調査分析すること、(2)他の先進事例やICT等の技術を踏まえながら比較的安価で効果的な推進方策を検討すること、(3)上記を踏まえた提案発表会を村内で開催し、その提案を受けて村内の推進施策を公的に構築すること、を活動の中心とする。(1)については、研究代表者及び研究副代表者とその研究室の学部生と研究協力者で九戸村の抱える課題を抽出するための実態調査を実施する。(2)については、県外の先端的な取り組み事例について展示会視察や事例調査などにより情報を収集する。(3)については、研究協力者の協力により、研究代表者と研究副代表者の研究室の学部生(主に3年生)、九戸村の村内関係者、研究協力者と関連企業の社員により九戸村にて富士通㈱と㈱富士通エフサスとの「共創ワークショップ」を開催し、その成果を基に九戸村内に対して提案を行う。九戸村からは、村役場職員や住民など幅広く参加することを想定する。

富士通㈱と㈱富士通エフサスとの「共創ワークショップ」とは、アイデアユースケースの発想・共創のためのワークショップで、最新ICTを活用したデザイン・アプローチ手法を用いて、顧客の課題を解決に導くための共創ワークショップであり、誰でもゲーム感覚で取り組めるワークショップである。ICTなどデジタル技術を活用し、多様なパートナーと共創してイノベーションを生み出すことが出来、ビジネスや事業の成功に不可欠な、企業として目指す方向性を明確にすることが出来る。

図 共創WSの取り組み全体像(一部抜粋)



注) 赤枠実線が本地域協働研究で実施するフェーズ
赤枠点線が提案後に九戸村で推進施策として取り組むフェーズ
出所)『FUJITSU JOURNAL(富士通ジャーナル)』2017年夏号より抜粋

▼研究の成果（結論・考察）

研究実施者として、総合政策学部・准教授の近藤信一のグループが中心となり、(1)九戸村内でのフィールド調査、(2)他自治体での先端取り組み事例調査、(3)課題に対する提案発表会の実施、について行った。

九戸村役場のグループは、上記のうち(1)と(2)について本学の活動について協力をいただいた。具体的には、(1)については調査対象の選定と調査日時調整など、(2)については役場職員および住民など村内関係者による参加者の募集と会場の設営など、で協力をいただいた。

本協働研究の実施に際して、特に(3)の課題に対する提案発表会について富士通㈱(岩手支店)と㈱富士通エフサスに研究協力者として本協働研究に参加いただき、同グループが有するツールである「共創ワークショップ」を活用させていただくとともに、実施についても協力をいただいた。

本協働研究の実施では、(1)九戸村でのフィールド調査の実施により九戸村の抱える課題が明確になり、(2)先端事例調査を加味して分析することで取り上げるべき課題を抽出し、(3)課題に対する提案発表会(富士通㈱と㈱富士通エフサスとの「共創(Co-creation)ワークショップ」)を開催することで、九戸村の「スマート・ビレッジ」構築に向けた効果的な施策立案への提案を行った。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

2021年3月19日に実施した共創ワークショップで浮かび上がった九戸村の抱える課題に対する解決案については、今後富士通グループと九戸村で、案を取捨選択した上で、解決案の実施に向けて協議していくことになっている。